

画家解説

赤松 麟作 1878～1953

岡山県生まれ。東京美術学校（現:東京芸術大学）で黒田清輝に洋画を学び、のち大阪朝日新聞社に入社し挿絵画家として活躍。国枝金三・小出樞重・黒田重太郎らと信濃橋洋画研究所を設立。自らも赤松洋画研究所を開き、関西洋画壇の指導者として後進の育成につとめた。

麻生 三郎 1913～2000

東京生まれ。明治学院中等部を卒業し、太平洋美術学校選科に入学。25歳で渡欧して各地を巡るが、大戦の勃発により帰国。豊島区にアトリエをかまえ、松本竣介・鬘光らと新人画会を結成。戦後は武蔵野美術大学で教鞭をとった。

小見寺 八山 1889～1934

神戸生まれ。浅井忠らが設立した明治美術会の後身である太平洋画会研究所に学び、帝展を中心に出品。神戸風景などを描いた。

前田 藤四郎 1904～1990

明石生まれ。神戸高等商業学校を卒業し、大阪・松阪屋の宣伝部に入社。独学で版画技法を学ぶ。軍隊生活を経て、グラフィックデザインの仕事をしながら制作に専念。さまざまな技法を駆使してシュールレアリスム版画の先駆者として活躍した。

鹿子木 孟郎 1874～1941

岡山生まれ。14歳で松原三五郎の画塾に学び、学校教員として勤務。三度の留学でフランス・アカデミーの画家、ジャン＝ポール・ローランスに師事。帰国後は京都を拠点として浅井忠らと関西美術院を創設。のちには美術院長をつとめた。

北川 民治 1894～1989

静岡生まれ。早稲田大学を中退し、渡米。働きながらニューヨークの美術学校に通う。メキシコに渡って制作活動が続けるかたわら、美術教育の運動に携わる。帰国後は二科会を中心に出品。日本での美術教育の普及に努める。

国枝 金三 1886～1943

大阪に生まれる。大阪高等商業学校を中退し、山内愚僊・赤松麟作に洋画を学んだのち関西美術院に入学。二科会会員として活躍し、信濃橋洋画研究所の設立にも参加した。

桜井 悦 1910～1989

福岡県生まれ。大阪府立夕陽ヶ丘高女を卒業し、女子美術専門学校（現:女子美術大学）洋画部に学ぶ。卒業後は大阪に戻り、中之島洋画研究所に学んだ。小磯良平に師事。のちには関西美術学校や女子美術大学で教鞭を執った。大阪を代表する女性洋画家。



田崎 広助 1898～1984

福岡生まれ。父の反対で東京美術学校への進学を断念し、福岡師範学校（現:福岡教育大学）を卒業。小学校で教鞭を執るが、辞職して関西美術院に学ぶ。坂本繁二郎に師事。渡欧してパリで制作活動に励む。帰国後は一水会を中心に活躍した。

中川 紀元 1892～1972

長野県生まれ。20 歳の時、東京美術学校彫刻科塑造部へ入学するが、のちに退学。太平洋画会研究所で藤島武二から洋画の手ほどきを受けた。27 歳で渡仏し、マチスに師事。帰国後は二科会を中心に活動。日本にフォーヴィズムの手法を紹介した画家として知られる。

鍋井 克之 1888～1969

大阪生まれ。白馬会洋画研究所に学んだのち、東京美術学校西洋画科に学ぶ。二科展を中心に出品し、小出楢重・黒田重太郎・国枝金三らと信濃橋洋画研究所を設立する。戦後は中川紀元らと第二紀会を結成。

林 重義 1896～1944

神戸に生まれ、少年時代を大阪で過ごす。18 歳で京都市立絵画専門学校に入学して日本画を学ぶが退学。関西美術院でデッサンを習得、鹿子木孟郎に師事して本格的に洋画を学ぶ。滞欧を経て、関西を中心に活躍した。

藤田 嗣治 1886～1968

東京生まれ。東京美術西洋画科を卒業し、パリに渡る。スーチンやモディリアーニと交流し、エコール・ド・パリ（パリ派と呼ばれる画家たち）の一人として活躍する。第二次大戦中は従軍画家として戦争画を制作。戦後はふたたびパリに戻り、フランス国籍を取得。

古家 新 1897～1977

明石生まれ。京都高等工芸学校（現:京都工芸繊維学校）を卒業し、朝日新聞社に入社。信濃橋洋画研究所で鍋井克之に洋画を学び、フランスへ留学。帰国後は全関西洋画展や二科展を中心に活躍。戦後、向井潤吉らと行動美術協会を立ち上げる。

松本 鋭次 1894～1968

大阪生まれ。東京美術学校西洋画科を卒業し、渡欧。パリで創作活動に従事し、サロン・ドートンヌに出品。帰国後は赤松洋画研究所の指導者として田川寛一らと活動を続けた。

